



長崎高教組

定通部だより

2013年1月15日

第4号

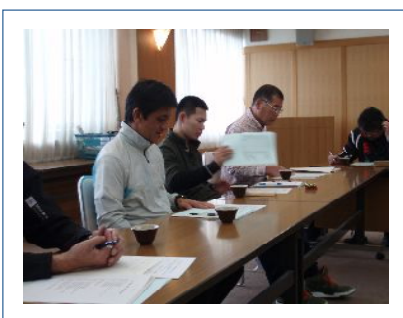
発行責任者 今泉 宏

ホームページ <http://nagasaki-kokyoso.org>

メールアドレス info@nagasaki-kokyoso.org

日高教定通部中国・九州・四国ブロック 2012年学習交流集会

2012年11月10日(土)～11日(日)岡山いこいの村



(1) 各県交流「高校生の修学保証」

山口

「2012年度定時制・通信制高校の教育条件および勤務条件改善に関する要求書」を提出し、定通部県教委交渉を行った。(主な内容は以下のとおり)

①「だれもが、いつでも、どこでも」学べる定時制の原点を損なう統廃合は行わないこと。

(県教委)平成17年度9月に策定した再編計画にもとづいて実施。多部制課程の設置を検討。

②卒業時の進路および在学生との就労について、関係機関と連携してその保障・確保に努めること。

(県教委)企業との連携を強化する。

③定時制の学級定員を20人以下にして、学級数と教職員定数を増やすこと。

(県教委)難しい。

④すべての定時制および通信制高校に専任・正規の養護教諭を配置すること。

(県教委)平成15年度から非常勤を配置。すべての学校に正規の養護教諭を配置することは困難であるが、各学校の実情を踏まえて対応したい。

⑤高校在籍期間が48月を超える生徒の授業料を不徴収とし、すべての定時制・通信制生徒の授業料を無償化すること。

(県教委)教育費負担の公平性の観点から通常の修業年限を超えたら徴収する。病気や家庭の事情等があれば考慮する。

⑥通信制のスクーリング会場までの交通費について、柳井および下関までの往復の高速料金を出すこと。

(県教委)スクーリング予算は前年度を参考に。前向きに検討する。

⑦県費負担で各教室にエアコンを設置すること。当面、網戸を設置すること。

(県教委)耐震工事、支援学校等の整備に優先的に取り組んでいる。

日高教定通部 中国・九州・四国 学習交流集会 本県参加者

濱本功二 (大村定)

烏山隆弘 (鳴滝夜)

江頭清隆 (佐工定)

山口和晃 (佐工定)





大荒れの瀬戸内海



講演 福島捷美氏

島根

- ・宍道高校(多部制・3部制)が開校。
→カラーが強い。分校が2つ閉校になった。
- ・就職ができないので、3年卒を4年卒に途中から変える生徒が出てきた。
- ・特別支援学校の高等部との併願をする生徒がいる。

岡山

- ・発達障害の生徒なのか、しつけの範囲なのか判断しにくい生徒が多い。小規模校が多いので、人事異動で職員が入れ替わると学校体制がガラッと変わる。
- ・全日制との併設校で「定時制の生徒入るべからず」という張り紙を貼られた。

長崎

- 佐世保工業定時制は、応募者が2年連続10人未満だった。これは基本的には募集停止の基準。
→職員会議で話し合ったが、「是非残して欲しい」という意見は少なかった。

佐賀

- ・平成19年度から50分授業。
- ・仮卒後の自宅学習の日を授業日数に入れているか？
- ・高卒程度認定試験を単位認定しているか？

岡山・佐賀 (通信制の協力校の授業について)

- ・協力校はあるが、教師が出かけて行って授業をしている。

(2) 講演

講演「鹿久居島原発反対運動の歴史」

講師 社民党岡山県連合代表 福島捷美氏

(3) 鹿久居島見学

数十年前、岡山県にも原発を作る計画があったが、住民に運動で計画を廃止したというすばらしい歴史があった。その建設予定地の島を船で見学することになった。船が出港する日生港へ向かう途中、入江にかかる橋を渡ったとき、橋に設置されている風速計は11メートルを表示していた。港について車を降りたとき、風雨は非常に強かったが、私自身「瀬戸内海は内海だから」というくらいで、海を嘗めていたところが確かにあった。

風雨は非常に強かったが、船(遊覧船)は出港した。港を出てしばらくはそれほどでもなかったが、鹿久居島の南西海域から波が高くなってきた。誰かが「ジェットコースターみたいですね。」と冗談を言っていたが、だんだん誰も口を開かなくなってきた。南東海域にきた頃には、波は3メートルを超えていたのではないかと思われる。ちょうどその辺りが、原発建設予定地の沖合だったが、大荒れの海では、ガイドの方の説明もなかった。乗船した人は、皆無口になり、おそらく身の危険を感じたのではなかったのか、と思うくらいの悪天候だった。島の北側に差し掛かったときは、ようやく波は低

くなり、みなさん安堵したと思う。しかし、狭い水道(瀬戸)を通過しているときに、急に「ガガガッ」という音と衝撃があり、危うく座礁しそうになった(2回も)。港に着いたときには、みなさん緊張感から解放されたのか、ほとんどが無口で船を下り、解散した。(濱本)

(4) 参加者の感想

最後にとてもスリリングな経験をしたが、風光明媚な場所での学習交流集会は、心身ともにリフレッシュすることができました。普段交流が少ない中国地方、四国地方の教職員の方と交流することは、知識だけではなくその土地その土地の風土、文化、そしてそこで生活している人たちの人柄などに接し、感じることで、とてもすばらしい時間を過ごしました。来年は佐賀県で開催されます。たくさんの方が参加していただければと思います。(濱本功二・大村定)

学習交流集会では、各校が抱える問題点や課題、各県の取り組み状況等を出し合い、情報交換しながら学習し、交流を深めました。主なテーマは、授業料と学校徴収金、多部制、給食、授業時間、発達障害、進路保障、学校統廃合、高認試験の単位認定等です。状況に合わせて工夫された各校の取り組みを聞き、大変勉強になりました。また、各県が共通して直面する問題については、連帯して活動を進める必要性を強く感じました。(烏山隆弘・鳴滝夜)